

南阿蘇村 南阿蘇村歴史的石積群

文化的景観をかたちづくる 歴史的石垣の再生



分解前の石垣。地震や豪雨で傷んでいた。



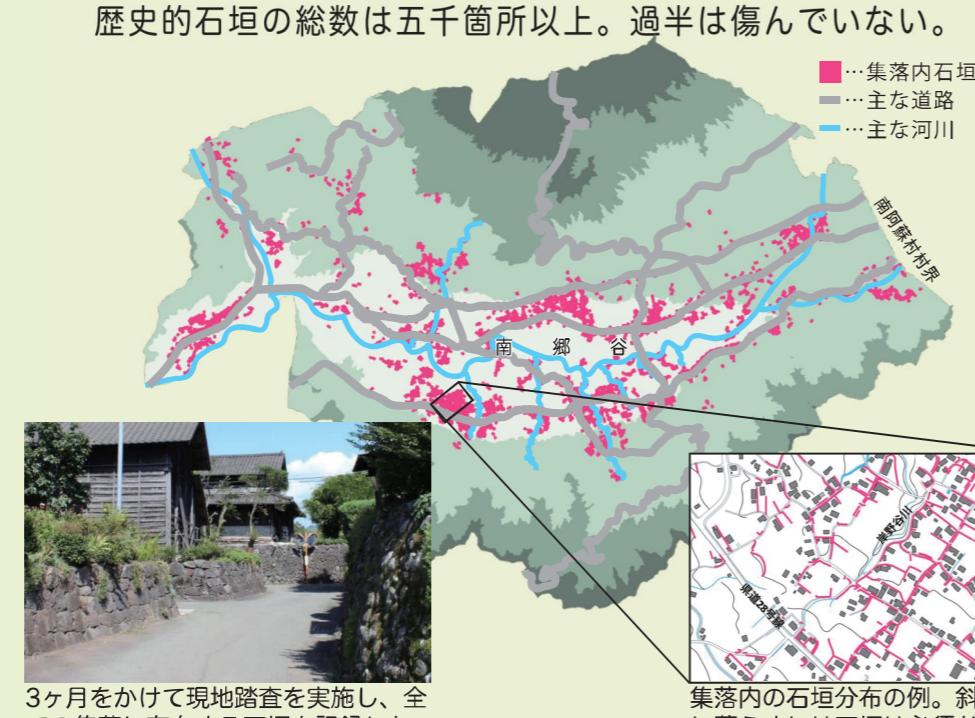
昔の知恵と技を学び、エコな歴史的石垣を再生しました
地域の文化的景観として南阿蘇村に多数残る石垣は、地域循環資源である石だけ築かれています。二酸化炭素を出さないエコな技術であり今後再評価されるべきものですが、技術の継承はなされていません。石積み文化の復興を目的に、傷んだ石垣（左上の写真）を丁寧に解体し先人の知恵と技を学びました。そして試行錯誤しつつ新たに石垣を積みました。学びを活かすことで、地域らしい表情と十分な強度を備えた石垣を再生できました。
2024年度グッドデザイン賞受賞。

1. エコだけどつくれない石積み

詳細な現地調査の結果、南阿蘇村には古い（歴史的）石垣が多数あることを確認できた。地域循環資源の石だけを使った古い石垣は文化遺産として大切なだけでなく、コンクリートなどを使用せず二酸化炭素を排出しないため、これから時代に良くマッチしている。しかし、昔ながらの方法で丈夫な石垣をつくる技はほとんど継承されていないことも判明した。では、どうすれば素晴らしい石積み文化を復興していけるだろうか？これが最初の問題意識だった。

2. 分解することから学ぶ

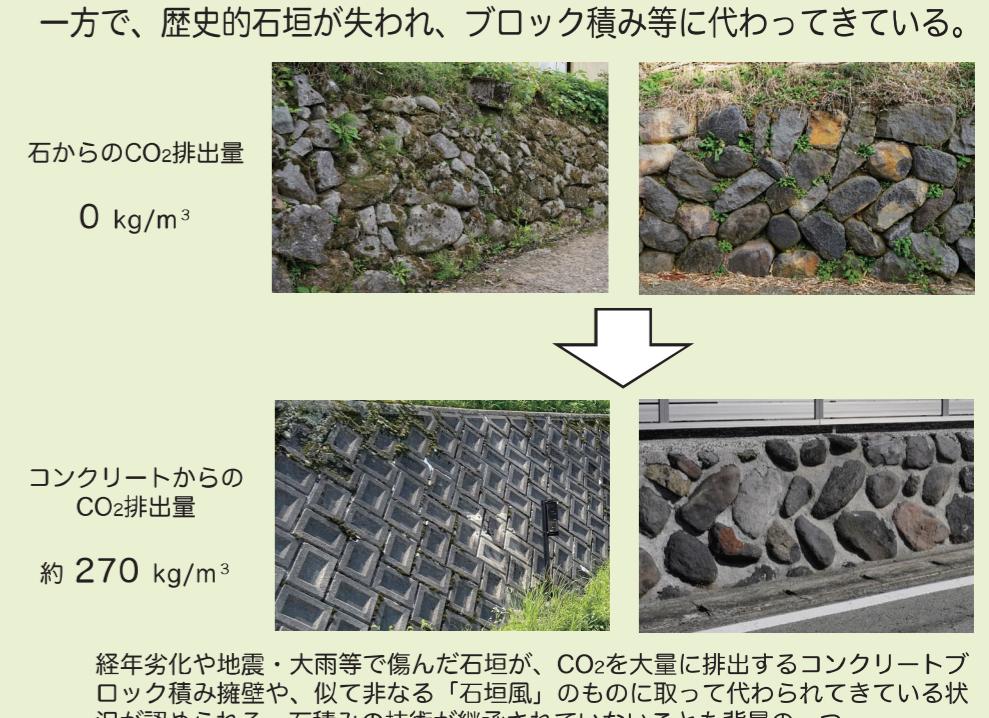
南阿蘇村の歴史的石垣を保全していくには、何よりも「積む技」を蘇らせることが重要。そこで2022年、所有者の許可を得て、損傷していた歴史的石垣のほぼ全体を丁寧に分解し、丈夫な石垣を積むための先人の知恵と技を学び取ることにチャレンジしてみた。貴重な機会を与えてくださった所有者の方々に感謝。さらに地域の古老の方々に石積みの経験についてヒアリングを実施した。



3ヶ月かけて現地踏査を実施し、全ての集落に存在する石垣を記録した。



火山が多く、集落ごとに石垣に使っている石の種類が違う。



一方で、歴史的石垣が失われ、ブロック積み等に代わってきている。

3. 歴史的石垣を積んでみた

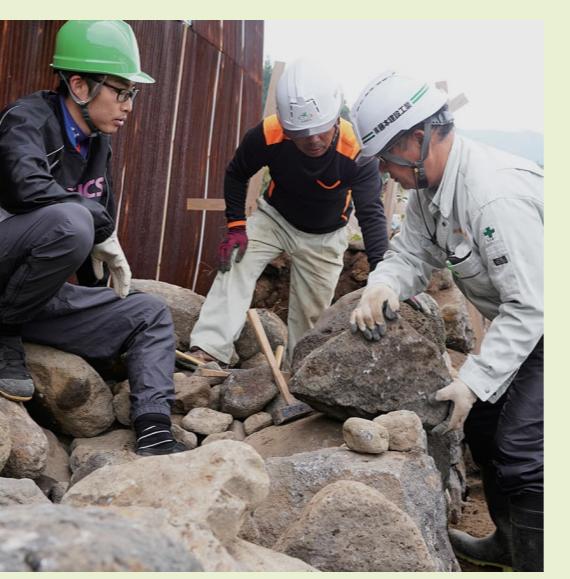
分解からの学びを活かせば、我々にもきっと空積みの石垣を作れるはず。分解調査の翌年、石垣再生に挑んだ。地元建設会社等からも多数の方々が参加。皆で意見を出し合い試行錯誤しながら作業を進めた。納得のいかないところは何度も積み直した。もちろんコンクリートは使用していない。先人の知恵と技をしっかり反映した。半年後に完成。まだ真新しいが、少し時が経てば、分解させてもらった石垣と同じ地域らしい表情を醸し出すようになると考えている。



巨大な基礎石をまず据える。重機の助けが無いと無理。昔の人はこれを牛馬の力を借りながら人手でやっていたという。古びて、土の上に積石を敷きよく叩き締めた上に大きな根石を広い面を下にして据えておけば、高さ1.5m程度までの石垣ならほとんど沈下することはないそうだ。



研修会に参加された地元建設業・造園業の方々が二段目を据えている。下の二つの石と控の鈎石と合計3点で安定させるようにするのだが、コンクリートを用いた練り積みに慣れていると小ぶりの石をいくつも狭間に隙間に詰めてしまう。それだと楔石が動くと不安定になってしまう。



実用の石垣なので、出来るだけ削るなどの加工はせず野面石の姿のまま据えいく。石毎にどう置けば座りが良いかを見分けなければならない。また、さらに上の段の石がくっつくよう、上面は内側に下っていないといけない。最初は試がわぬないが、すぐにコツがわかってくる。



ここまでくると腕が上がり、石の上面が内側に下るように積みている。正面と裏面の右の間に積石を隙間に入れると石垣の強度が高まる。これで分解からの学び。分解した石垣には、奥石の他に土（阿蘇火山灰）も入っていた。積石を大量に確保するのが大変だったので、手近な土で代用したのだろ。



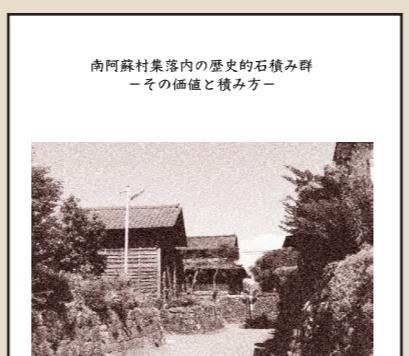
端部は難しい。全ての石を中奥に向かって下向きに傾斜させてやらないと安定しない。もとの石垣では崩れてしまっていたが、おそらくはこのような姿だったと考えられる。最後に最上部に扁平な石を敷き並べて完成。

4. 古くて新しい価値の共有と展開

わずか一例ではあるが、南阿蘇村の歴史的石垣の復興につながる貴重な経験ができた。次からはもっと手早く積める自信もついた。現在は、地域の方々に石垣の持つ歴史的価値と今日の価値の両方を再認識していただく活動、石垣を積める人材を育てる活動、石の資源循環の仕組みの構築、そして歴史的石垣を活かしたエコツーリズムの立ち上げなどに、南阿蘇村役場を中心に取り組みつつある。



歴史的石垣の価値を伝えるパンフレット。昨年、南阿蘇村村報に添付して全戸に配布。今後も地域イベント等で配布していく。



現在、歴史的石垣の保全・再生・新築のための手引き書を作成中。川後田で学んだ先人の知恵と技を紹介し石垣の積み方をわかりやすく解説。



南阿蘇村は2022年に国から「SDGs 未来都市」に選定された。上は公募で選ばれたオリジナルロゴマーク。今年から、歴史的石垣の保全・活用がメニューの一つに加えられた。



歴史的石垣の保全・復興に向けまもなく「南阿蘇村ストーンバンク」を開始する。工事現場等で発生する石を村内に指定した複数のストックヤードで保管し、石垣の補修や新築事業に対し円滑に地元産石材の供給を行っていくためのメカニズム。



歴史的石垣エコツーリズム
食・生業など様々なエコな石垣と組み合わせることで、地域の再評価と地域振興に繋がるエコツーリズムメニューを開催していく。写真は地元シンポジウムを現在構成中の様子。